



第 6 号

発行日 1994年4月13日

編集人 横浜市グループホーム連絡会

横浜市中区本牧溝坂10本牧生活の案内

TEL 045(623)5318 FAX 045(623)5319

昭和51年12月22日第3種郵便物認可

KSK 増刊通巻985号(毎月4回5・15・20・25日発行)

わたしをしせつたいけん

ふれあい生活の家 入居者

原 田 美恵子

わたしは横浜にあるグループホームにすんでいます。どうしてグループホームにすんでいるかといいますと、もしおやがしんだらわたしはしせつにいくみちしかありません。しせつはひどいところです。どこがひどいかわかるといいますと、ふつうの家だったらおふろの時間は夜の8時ごろです。だけどしせつはごごの2時には入ります。せっかくおふろに入ってもまたあせをかいてしまいます。おふろに入りたいみがありません。あとしせつではばんごはんの時間はごごの5時からです。それでは夜になるとおなかがすいてしまいます。あとねる時間は8時にベットへ入ります。わたしはともしせつはいやだとおもいました。それからしせつを出て家にかえりました。しばらくしてから、グループホームに入りました。グループホームとしせつはちがいます。どこがちがうかわかるといいますと、まずしせつはじゆうがありません。どこがじゆうがないかわかるといいますと、たとえばおもてに行くときにがいしゅつとどけをださないといけません。だけどグループホームはじぶんの家だからこんなひつようがありません。それからしせつのへやは4人くらしています。ですからもしかなしいことがあったりそれから一人になりたいとき一人になれません。グループホームはへやはこしつですから一人になりたいときになれます。わたしはこしつのほうがいいです。わたしはグループホームのほうがいいです。

これでおわります。

レスパイトサービスの実現を

— 検討会活動始まる

レスパイトサービスの制度化をめざして横浜市レスパイトケア検討会が活動を始めました。レスパイトケアとは、障害児・者を、介護している家族に代って一時的に介護を行なうサービスのことです。現在も横浜市では緊急時(家族の病気等により介護できなくなった場合)の緊急一時保護制度や、「保護者等の疲労回復を図るため障害者(児)を一時的に入所させます」(横浜市の障害福祉のあんないより)という一時入所制度があります。しかし、これらの制度には多くの問題点が指摘されています。障害をもつ本人にとっては施設や病院に行く必要がないのに入所しなければならぬこと、障害児者が楽しめたり、また行きたいとかと思える状態ではないため親としては倒れる寸前のぎりぎりまで利用したくないと考えてい

る人が多いこと、緊急時だということに手続きが煩雑ですぐに利用できないこと、福祉事務所が休みだと利用できないこと(例えば金曜日の夜に緊急事態が発生しても、月曜日まで手続きもできない)、日常生活がおくれない状態になること(通っている学校や作業所などに通えなくなる)などの問題点があります。

そして、どこにいくか利用者側を選択権はなく、それどころか長期になると、施設や病院を二週間とか一ヶ月単位で転々とするという現状があります。

昨年九月二十六日には緊急一時、レスパイトケアの今後のありかたをめぐるパネルディスカッションが開催されました。四百名を超える参加者の熱気にあふれた討論から、この問題が障害児者及びその家族にとっていかにせっぱつまっ

た課題であるかを感じさせられました。その中でも「緊急事態がおきなような家族支援を充実することが必要」、「子供がいやがるような状態では、親の疲労回復にはならないし、制度利用も避けたい」などの指摘もなされました。

その後パネルディスカッション実行委員会はレスパイトサービスの実現をめざして引続き活動を続けることになり、横浜市レスパイトケア検討会として再発足しました。

実行委員会を構成していた心身障害児者を守る会連盟、横浜市知的障害関連施設協議会、在援協に、新たに作業所連絡会、活動ホーム連絡会、グループホーム連絡会も加わり、大きな広がりをもつ活動となつていきます。

み荘で泊まる、デイズニールランドに行くなど障害をもつ本人にも楽しく、プラスになるように工夫しながら取り組まれていることなどがわかってきました。

検討会の調査の中で、現在制度化されていないが作業所やグループホームで緊急一時やレスパイトケアが相当行なわれていること、それらは例えば職員と一緒にあゆ

中でシヨートステイセンターという構想をうちだしています。このことは大変大きな前進だとは思いますが、この広い横浜を数ヶ所のセンターだけではとてもカバーできません。作業所での取り組みや、親同士との支え合い、介護人の派遣など一人一人の事情に応じた様々な地域におけるサービスが必要で

平成六年度予算説明行なわれる

去る三月一七日の午後、横浜ラポールにて横浜市の平成六年度予算説明会がおこなわれました。今回は、横浜市グループホーム連絡会、横浜市作業所連絡会、横浜市活動ホーム連絡会の三連絡会合同で横浜市および在援協からの説明を受けました。

グループホームについては運営基本費一人当たり月額八万一千円、介助型運営基本費は一人当たり月額十三万一千円というものとどまりました。(昨年の三千万増)

昨年、在援協より作業所職員の給与基準が示されましたが、グループホーム連絡会でもこれに足並をそろえてできるだけ運営内容のレベルアップをすすめようと努力してきました。

しかし新年度の作業所予算では在援協の給与基準の昇給分の増額も確保できていないという状態でした。グループホーム連絡会とし

ても横浜市のこの対応には、将来への大きな不安を感じずにはいられません。

また不況下の予算編成というところで、グループホーム連絡会では制度の大幅改革や新設が困難なこの時期にこそ現制度の見直しを検討していただきたいと考え、「今あるガイドヘルパー、ガイドボラティア制度に知的障害者も加えてほしい」という要望や、「ホームヘルプ制度を重い障害を持った人たちが使いやすい制度にしてほしい」という要望を出してきました。しかしこれらについても前向きな検討の姿勢は感じられず、たいへん残念に思いました。

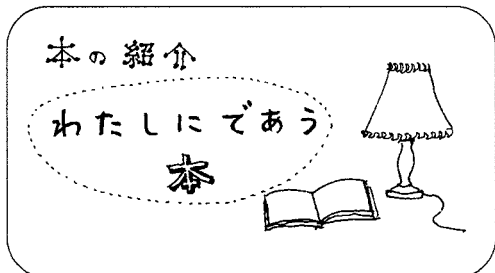


「私って障害者？」こんな質問にどう答えたらいいのでしょうか。

障害、特に知的障害を本人や周囲の人たちはどう認識しているのでしょうか。

この問題にいつまでも背を向けているわけにはいきません。自分の障害についてきちんと理解することは、障害者が自立して生きていくうえで、大変重要です。

「わたしにであう本」は、知的障害をもつ人が、自分の障害を理解し、受け入れることを助けるためにつくられた本です。また、知的障害をもつ人が読みやすいよう、文章やイラストに工夫がされていて、これからの本人向けの本のあり方の見本にもなりそうです。



この本はグループで話し合いながら読んでいくようにつくられています。グループホームですと、大変使いやすいでしょう。話し合いの援助者になる人向けの本も同時に発行されています。障害をもつ人が自分の障害を恥ずかしいと感じているのは、周囲の人たちの知的障害の認識の反映であり、まず、周囲の人たちの意識の变革をこの本では求めています。障害をもつ人たちが胸をはって障害について語り、で

きないことの援助を遠慮なく言えるようになる、そのようなことをこの本はめざしています。

発行 全日本精神薄弱者育成会

グループホームれんらく会 入居者部会

ことばがなかなかしゃべれない人、
しゃべりだしたらとまらない人、うま
く表現できない人、さまざまな入居者
がみんな集まって、月に1回会議を
もっています。

うまくはなせることもあれば、全然
うまくはなしあえないこともあります。
でも2年間つづけてきた中で、ずい分
入居者どうし顔見知りになり、それ
ぞれに意見が出るようになりました。
れんらく会で行なう行事の内容
をどのようなものにするかとい
うはなしあいを中心に、入居者
部会のすすめ方や、職員への希望
などもはなしあいました。

- これも3月26日にはなしあわれました。
- 会議についてみんなの意見をききました
- はなしやすい議題をみんなからいつもらった方がいい。
 - はなしがわからないこともけっこうある(声がきこえない)。
 - もちがえって報告するのがむずかしい。
 - 司会がむずかしい。どうすればいいかわからない。



3月26日(土)のようす

出席...入居者 10名
援助者 7名

内容...こうりゅう会の反省

たとえば...カラオケ—時間がたりなくて数

うたえなかった。

ディスコ—生バンドでできれ

ばもつとよかった。

交流会—他のホームの人の名

前がわからない。名札があ

ったほうがいい。

話し合い—結婚とかの話し

合いはよかったと思う。

来年のこと—グループホー

ムがふえるので、あゆみ荘のままでほせず
かしい。→次の入居者部会までに各グル
ープホームでどうしたらいいか話し合っ
てくる。

入居者部会に出席する人は、ホームによって、きまっていたり、その
時出席できる人が出たりしてはいますが、たくさんのメンバーが会議を
経験しています。



シリーズ まちの中で

—まちの人たちとのページ—



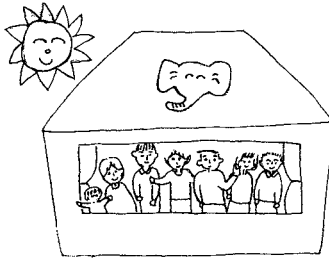
福田米店さん



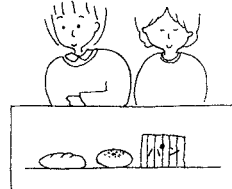
お米の配達などに行ったことがあり、どんな所に住んでいるかや暮らしぶりは前の職員の方にいろいろ聞いていました。昔、自分が出来ることをそれぞれ頑張っていて、おじさんも励まされています。

ダンボでは一番よく買い物に行く二軒のお店にインタビューに行きました。どちらのお店の方も親切で丁寧に答えてくれました。これからもっと仲良くなって行くように、と思っています。

グループホーム・ダンボ



松本商店さん



前の職員の人に話はよく聞いていましたが行ったことはないの、どこにホームがあるのかと言うことも、知りませんでした。障害を持っている人とかがもっと身近に交流出来るといいのね。たくさんで来られると、ゆっくり話が出来ないので一人ずつ来てくれると、うれしいです。

“友の家”のご近所の主婦、AさんとBさんの会話から

- A: “友の家”でバザーしてたから、買いに行ってたけど、どういものかは気にしてなかった。街で障害のある人を見ると、かわいそうとか、こわいとか、避けて遠目に見るって感じだった。それが“生活クラブ”の共同購入の同じ班になって、職員さんとメンバーのやりとりをじかにみるようになったら、ああいうふうになればいいのかって……。その後、体操フェスティバルにいっしょに出ることになって、いっしょうけんめい練習してる姿もみだし、いろいろ話しかけてくれる人もいて、普通に話ができるようになった。
- B: 私は親の会のお手伝いから“友の家”にはいったけど、今は“体操クラブ”(毎水曜夜、友の家メンバーを中心としたレク活動)でみんなと楽しくやるのが最高。イギリスにいた時、かなり重い人をよく街でみかけたけど、みんな自然に手を貸す、特に若い人が。これは教育のちがいがいいじゃないかな。
- A: “福祉”って別世界で、そこにかかわるといいことをしてるんだって感じになるのがいやだね。でも普通にしていればいんだよ。
- B: 少しずつまわりに“友の家”やそれを取りまくことを伝えていくのが自分の役かになって思う、特に子どもたちに。
- A: 自然にふれあえる場面があるといいよね。
- B: こういうホームは、つくったのは親だとしても、親がなくても、行政のシステムと、地域の支えで、本人本位でなりたっていくのが本当でしょうね。

グループホーム交流会

おこなわれる



二月二十五日(金)・二十六日(土)の両日、グループホーム交流会が横浜市緑区にあるあゆみ荘でおこなわれました。

グループホーム連絡会に所属している十一か所のグループホームから総勢六十余名が集まりました。

これまで「新年会」ということで企画されてきたのですが、なかなか新年に場所を確保することがむずかしく、時期にとられずにやれたほうがいいのではないかということで、今年から「グループホーム交流会」になりました。

二十五日の四時頃から続々と各ホームの入居者が到着。六時から夕食なので風呂に入りたい人は風呂に入りました。仕事の関係で遅れて来た人もいましたが、大部分の人が夕食の時にはそろいました。

食堂に夕食の用意ができ、米田

入居者部会会長のあいさつのあと和やかな食事となりました。夕食も終わりに近づいた頃、次

はカラオケとゲームのグループに別れて楽しみました。カラオケはアニメソングの部と演歌の部に別れて思い思いの好きな歌を歌っていました。

ゲーム希望者は体育館でそれぞれやりたいゲームに別れて楽しんでいました。

カラオケやゲームが終了に差し掛かったところで、体育館に全員集合してディスコタイム。ディスコでは若い人も年を重ねた人もめいめいの踊り方で楽しそうでしたが、中にはついていけないと休んでいる人もいました。

ディスコで汗をかいたあとみんなでビンゴゲームを楽しんだところで、参加自由の交流会。お酒も少し入り、他のホームの入居者との交流がもてたようでした。アド

レスを交換する人もいましたし、それなりに楽しい交流会でした。

そんなこんなで最後の人が寝たのは午前三時半。時が流れ、あっという間に夜が明け、二十六日になりました。

二十六日は小運動会をやりたい人と、話し合いをやりたい人と、プールに入りたい人に別れました。小運動会では借り物競争、ペタンク等をやり、それぞれに楽しんでいました。

一方、話し合いの方はというと、グループホームの今後のあり方、結婚問題等について話し合っていました。難しい課題なので皆頭を抱えていました。

プールはあゆみ荘のとなりにあるところだったので見に行けませんでした。

十一時三十分頃、体育館に全員集合し閉会式を済ませたあと、各自のホームにもどっていききました。これを機会にホームの入居者同士の交流が盛んになることを望んで...

(「下宿屋」北村)

グループホームの入居者が皆で集う場として新年会がはじまってもう何年経ったであらうか?

常連となっている人たちはもう顔見知りになり、他のグループホームの人たちともあいさつを交わし、会話を楽しむ姿が見られる。

今年からはじめて参加の人が何人もいたように思う。ちよつと不安げな顔も時と共に笑顔に変わる。

振り返ってみれば、最初は他のグループホームの人と話すことができず、グループホームのメンバーと一緒に話したり行動したりできない人が多かった。

回を重ねるにつれて、グループホーム毎の垣根は少しずつ低くなり、障害者同士の絆が少しずつ結ばれているように感じる。

グループホームが増え、あゆみ荘ではせまくなってきた今日、連絡会が大所帯になっても、この大切な財産、障害者同士のつながりはみんな大事に守り育てたいと願う。

(M)

協力会員募集!

まちの中でくらししている障害者の姿や声をお届けする機関紙「まちの中で」を発行しつづけるためにご支援をお願いいたします。

会費(年) 1口 2000円

振替…横浜 8-73608
横浜市グループホーム連絡会

☆協力会員になっていただいた方には機関紙をお送りいたします。

基金づくりにご協力を!

グループホーム運営支援基金のためにみなさまのお手元でねむっている未使用のテレフォンカード、オレンジカード、ビール券、商品券などのご寄付をお願いします。

送り先・横浜市グループホーム連絡会
事務局

〒231 横浜市中区本牧満坂10
本牧生活の家 045-623-5318

※ ありがとうございました ('94.1.1 ~ 3.31)

寄付 石渡和美 秋山哲男

テレフォンカード 田中由美子、小倉吉洋、作業所連絡会、岩屋文夫、

大原日恵、奥本民代、秋山哲男、若宮、安田敏勝、牧篤子、青木紀美子、
山田博子、上野敬子、三浦保之、近藤博子、岩崎賢江

協力会員 森下トキ子、奥本民代、田中奈津子、川上礼子、畑中圭子、
権守史子、佐々木公子、沖山雪子、染谷美千代、片岡美恵子、永野昭子、
岡本美代子、嘉山初枝、安藤郁子、辻田平七、日高誠也、若林紀江、
生活ホームみずき寮、みずき寮・高橋、熊王敬子

編集後記 グループホーム連絡会もだんだん大所帯になって来ました。この4月から新たに、G.H.ハイナルミ(保土ヶ谷区)、G.H.グリーンツター(保)、G.H.グリーンハイツ(緑)、そして7月からG.H.ハーモニー(港北)が仲間入りします。会の運営面でむずかしい事も出てくると思いますが、みんなで頼れる会にしていきたい。(I)

発行人 神奈川県身体障害者団体定期刊行物協会
横浜市港北区鳥山町1752
横浜ラポール3F
編集人 横浜市グループホーム連絡会
横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家
TEL 045(623)5318
FAX 045(623)5319
郵便振込番号 00280-7-73608
名称 横浜市グループホーム連絡会
編集責任者 室津 滋樹
定 価 100円